

东栴雜記

三四

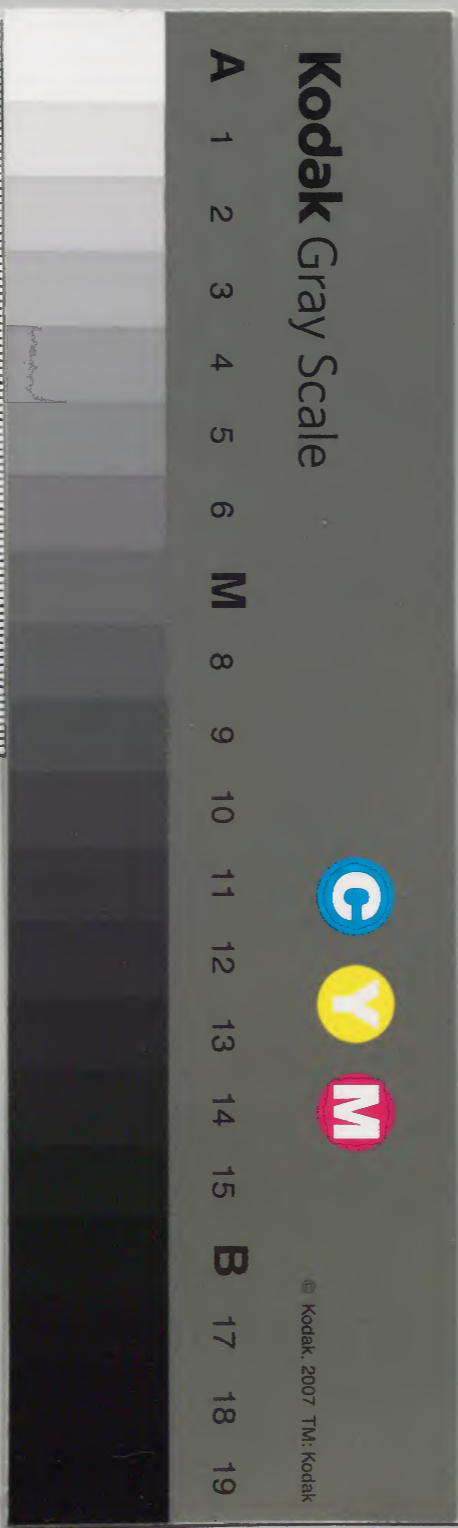
和書門			
二九四三〇	二九	〇	〇
號	函	架	冊

內閣文庫			
二九四三〇	二九	〇	〇
號	冊	架	函
和書			

内一〇九〇〇

地七六

內閣文庫		
番號	和	29430
冊數	10 (2)	
函號	177	1160



大洋ニテ月
廿エギルモノ
廿ラニ十三



暮坪村

東北雜記卷之六
陸奥國
津之石
廿八日
同書

丙一〇七九〇號

陸奥國
津之石
廿八日
同書

けしりよんかしく馬玉鳳さきり
け石海内才きの石なるか
あきれ小社あり各塔の社を称す
地方なる中別はる石の方正
おん石と稱せゆか塔石あり
石佛法之れくも海つら
岩地より浪なり目と好む
こころなるは比き小波又海
ふくむる池とんくいとて

之傳の石の東海の薩陀傍
小波の湍急はるのまを
沈めとよとろあむと入を
ろくの魚はるのびらの仲ら
少若をぐさみし海さけりて
なるる池がほらつこし
まこちんのうニカサと稱せぬ
けしりよんかしく岩なる

味^いみ^みめつ^めの^のよし^し九^く品^{ひん}ふ^ふの^の所^{しよ}取^とに
行^いく^くど^どカ^カサ^サト^トし^しぶ^ぶを^を稱^{せう}せ^せる^る貝^{かい}の^の形^{かたち}を
ウ^うニ^にカ^カサ^サト^トい^いふ^ふけ^けな^なし^しこ^この^のほ^ほら^らら
ふ^ふき^き貝^{かい}の^の形^{かたち}に^にし^し事^{こと}阿^あ摩^あ羅^らの^の事^{こと}を
畧^{りやく}して^{して}書^かき^きや^やむ^むせ^せる^る湯^ゆ温^ん海^{かい}の^の事^{こと}
して^{して}三^{さん}を^をと^とる^る所^{ところ}に^にう^うま^まう^うと^とし^して^{して}村^{むら}止^とる^る
け^けさ^さの^の行^いれ^れは^はこ^こと^とら^らな^なし^して^{して}も
之^{これ}も^も阿^あ摩^あ羅^らの^の事^{こと}を^を定^{じやう}せ^せし^しる^るを^を概^{がい}と
と^とら^らせ^せる^るの^のこ^こと^とを^をけ^けら^らは^はる^る海^{かい}濱^{はま}の^の事^{こと}

海上^{かいじやう}の^の名^な石^{いし}に^に是^{こゝ}に^に是^{こゝ}に^に是^{こゝ}と^とま^まら^らせ
う^うら^らし^しと^と地^ちな^なし^し海^{かい}と^と取^とら^らる^るの^の事^{こと}
と^と他^た像^{ざう}石^{いし}を^をし^しき^きの^の裁^{ざい}符^ふに^に取^とら^らる^る
や^やの^の角^{かく}に^にか^かの^の石^{いし}を^を取^とら^らる^る事^{こと}
柳^{やなぎ}子^こ石^{いし}を^を取^とら^らる^る事^{こと}
阿^あ摩^あ羅^らの^の事^{こと}を^を定^{じやう}せ^せし^しる^るの^の事^{こと}
形^{かたち}に^に似^にた^たる^る事^{こと}を^を取^とら^らる^る事^{こと}
阿^あ摩^あ羅^らの^の事^{こと}を^を定^{じやう}せ^せし^しる^るの^の事^{こと}
人^{ひと}は^はあ^あら^らな^なか^から^ら取^とら^らる^る事^{こと}

或しめかひに定つてけりまきて河分
 だてしころころの相違い御き相違の
 通い流河通けり事としてとら
 す其教百七づゑあつるあつたの
 上ごいふ名きほひてして解あほひ
 不身よりその元にして田中の内は
 さしとあつたすきふじとて御し御し
 あつた河をみめぐらぬとて
 之御村しりのちりけとこらまて石を

有を岩村の河の石御まうしと
 ちく河通しとしりや辰くと頃を
 是のちの村とてはけりたに申す
 よきうとてしめおれあつた河
 ちかみくさつた河とてはけりた
 ちかみやあつた河とてはけりた
 おくい河とてはけりた河
 ちかみとてはけりた河
 ちかみ河とてはけりた河

よりして海防のこしと稱し又海と
すも命ありくと信じて海防あり
よるし十島のはしりもついでと
ちんのお供ありあり

新後拾遺

あふふ海防ありあり
海防のこしと稱し又海と
すも命ありくと信じて海防あり
よるし十島のはしりもついでと
ちんのお供ありあり
新後拾遺

おのぼりくろとすーみるみらの
十島のこしの中とすよ

あふふ村の軍兵教は山を定む
つる教女真まねますと稱せむ
流すありをいふくの悟梳り信し
こころて器しあふふありあ
あふふ指尾の軍兵と稱しとらなり
うれは南國を北のうらなる大

物忌の神社なり

廿八日大山村山之立里ニテ四丁百田地

浦止宿

羽列飽海郡沼田の回答

是れは浦の川口より之なり

けし羽列第一の浦と云ふ事申す

新解高水小てくぬら治大振え

浦東と云ふ事申す九列中ぬら

大坂方通船文勢はぬら

していつまきまりして園中の

産物取はむ事なりちなりまの

喜はむ事なりちなりまの

音石燈の事なりちなりまの

坂田より門口まで五丁あり

やう園を道に伝へて

此可、右可
 四跡十三得
 定お利アリ



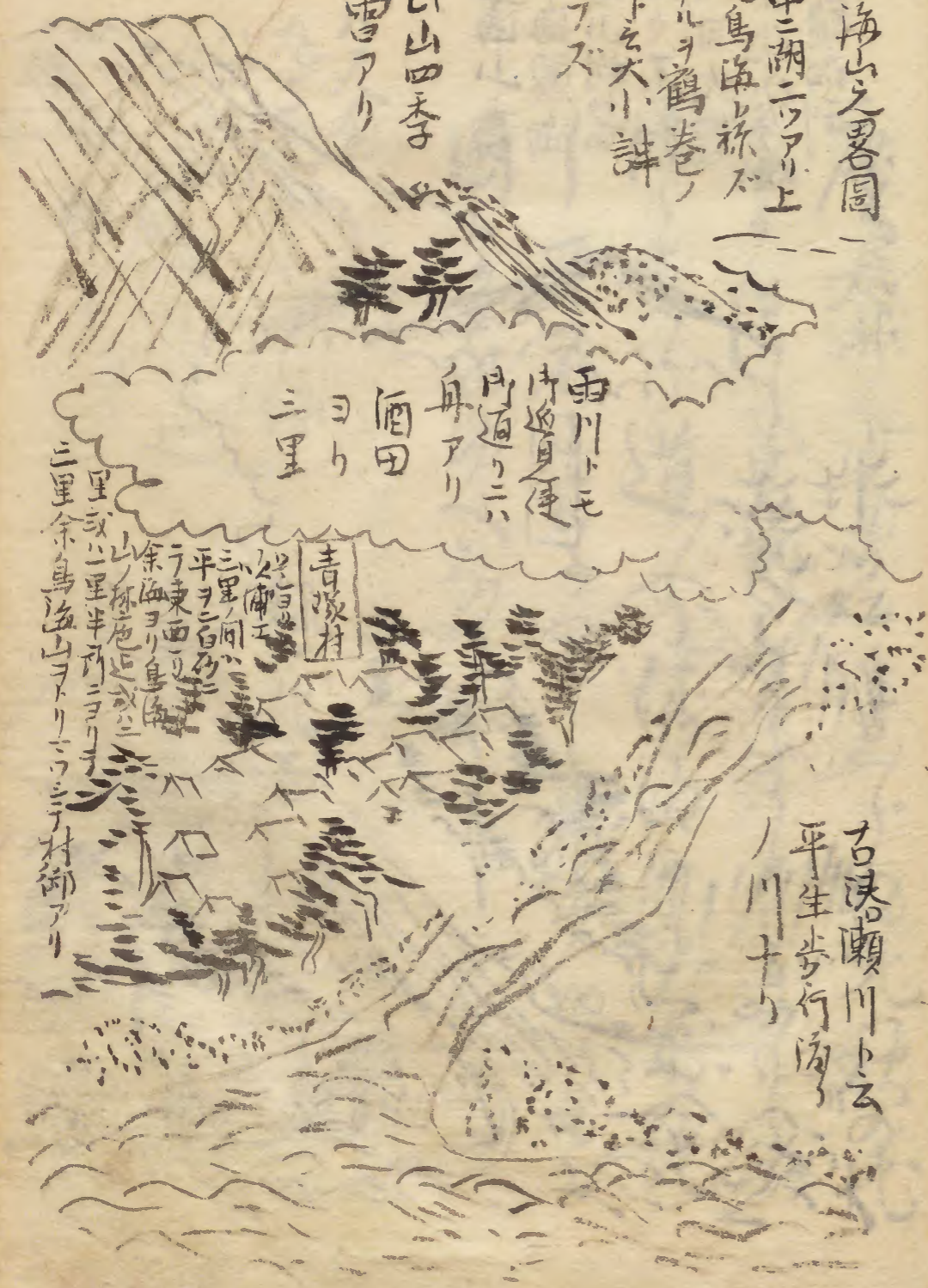
穴上川をせふ子川の河とゆはる
 事あるかぶしみるものとをさへい
 清水清水あらびけあまてのほき
 らして流列のそは可くおのり
 記をすへ山坪の園後川を三品
 カ根川末を三列四方十門末四品
 天龍門を上門末五石列かろ川
 ぬかの地な川に彼のつる川を
 ひまぶらぐこころと山の川を

信濃川南國のふれ川真加那の山
 川河武隈川の川さくヤ
 真加那の川をるるがくくさふす
 ろれこの後きさたを
 地はれはなるの事さ
 まれとも山さくさくふれ信
 濃をるるはさくさくさくさ
 白か山遊くくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくく

鳥海山之畧圖

上中二湖ニツアリ上
 ナル鳥海湖祿不
 下ナルヲ鶴巻ノ
 湖ト云々小註
 ナラズ

け山四季
 雪アリ



石浜瀬川ト云
 平生歩行河
 川ナリ

三里余鳥海山ヲリニテ村御アリ
 山ノ標危ニ
 余海ヨリ
 平ヲ西リ
 三里ノ間
 酒田ヨリ
 舟アリ
 雨川トモ
 内道リニ
 三里



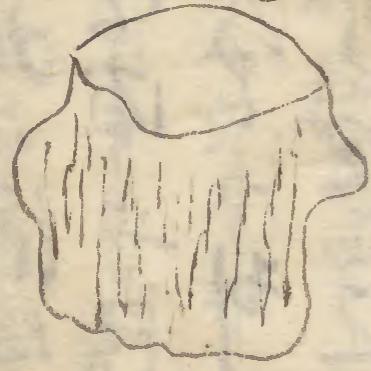
鳥海山高
 几海頭海
 雲山樹壑
 悠々不知
 何日大鵬
 翠化伏石
 山鎮羽引

水戸詣水

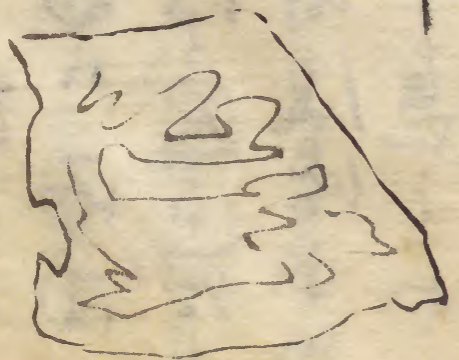
吹浦
 川下云
 鳥海山
 コリイツリ
 歩行降

廣大にして乙もきふぬ北嶺の地
 蒼々ほしむらひありまゝとありぬ
 ほとあゝ道へ体泊りもよぬ花
 して石とちまをこし較多のりまを
 困らぬゆへありぬ

八尺余
 九寸九
 ハカリ



板、化石
 ニワチカラ
 ニ里サハナ
 貫同余



廿九日酒田より足尾^ノ之里^ニ 幸^フ路^ニ 之里
吹浦止宿は色^ノの人のハ酒田
より少しおしりてこのめを路^ノ園^ニ也^ト
く^レを^テくま^レば^レ同^ノ園^ノの^ノ風^ノ俗^トハ
さ^レり^テあ^リる^ハなり

鳥海山^ハ毎^ニ一^ニあ^リる^ハ大^ニ山^ト酒田より
之^レま^レど^レお^ノ名^ノこ^ノえ^ノま^レ路^ノより
み^まだ^レ七^ノ宿^トよ^シと^レい^ハれ^ル風^ノ俗^ト

わ^レ酒田より^ノゆ^レり^トま^レて^ノ里^ニ
ま^レる^ハ頂^ノま^レて^ノ九^ノ里^ト向^ク
る^ハと^レ五^ノ里^トち^レの^ハあ^リる^ハさ^レ
る^ハ由^ノあ^リる^ハ道^ノま^レり^トあ^リて
行^レね^レ定^メる^ハん^トう^レ一^ニ鳥^ノみ
根^ノの^ハや^レり^トあ^リる^ハ二^ノ宿^トあ^リる^ハ
は^レか^レき^レお^ノり^トあ^リる^ハの^ハの^ハ海^ニ
可^レし^トも^レ別^ノあ^リる^ハ秘^ノ蹟^トま^レし^ト
よ^レら^レる^ハ午^ノあ^リる^ハの^ハ谷^ノと^レあ^リ

あつて田^い海^{しほ} くれめくねり
しりしりしり ^あから地とせぬけやま
峯のやけは ^あら ^あら ^あら
て ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
里の海の湖を流る色のことばし
ちひろくを ^あけんや ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
のふとく ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
ふ ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら

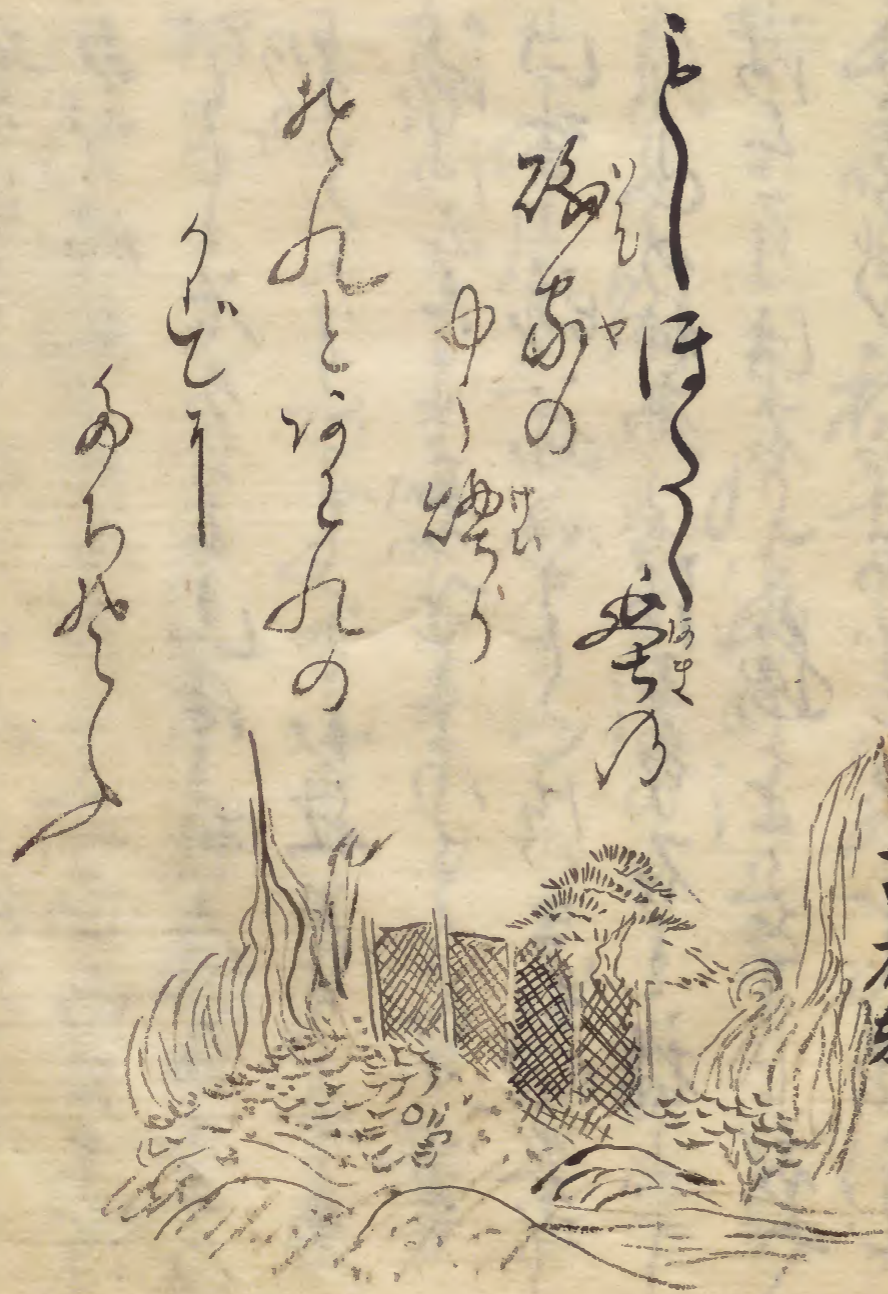
あつて田^い海^{しほ} くれめくねり
しりしりしり ^あから地とせぬけやま
峯のやけは ^あら ^あら ^あら
て ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
里の海の湖を流る色のことばし
ちひろくを ^あけんや ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
のふとく ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
ふ ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら
^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら ^あら

侍のちうちあまうすひんまを
きりきりぬびきりーにひんまを
ひんまをひんまをひんまを
ひんまをひんまをひんまを
ひんまをひんまをひんまを
ひんまをひんまをひんまを
ひんまをひんまをひんまを
ひんまをひんまをひんまを
ひんまをひんまをひんまを
ひんまをひんまをひんまを

はりの侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり
侍の侍まきりまきり

めおのびおしひおしひ
 荒信あつらふことふる月あかし
 清しく夕暮のれつらふと
 あはれこころ何となく物うきとく
 物にいれつらふはつめ

古石新



とほほほほほほほほほほ

おのの
あひ
あひ
あひ

おのの
あひ
あひ

あひ
あひ

あひ
あひ
あひ

葉肉のとのれりの海松りの
わが津急ふくなく上る山成す片
まし一石あるは山成あひあうら
かりしころこころし社ありあめ鳥
海海なるそとをまるしりて
け半海流つましくはまどふあ
外山の林兼て海なる石と祿ト
海なるけるそと海とくちりそや
とそけくちあむとそと海れ

ふなると稱せしハあづの宗匠が
幸あまきれ海の海なるしん
しを別人ある海のあるとあさ
との屋くわやまるこそしん
かゆしーまきしーまきしー古書
ましりてちびりあまき多し
ああうりのあうら京あよりせ
めん少座なるをくらあひーあ
地ふしあめはよやしきしげ

山体^山のりししと四なるのちたが
 之もいけしとくさつさきこも
 らふもけあやふのあまひの聲
 ぬけしてなごりまのひーたこれ
 くもきしし事ありしとくはふ
 かくしよのいおりのやたもなん
 ちくしし浮判かしし事あり
 けりししけりしとくはあそそ
 海くち路のちまうしとくはあそそ

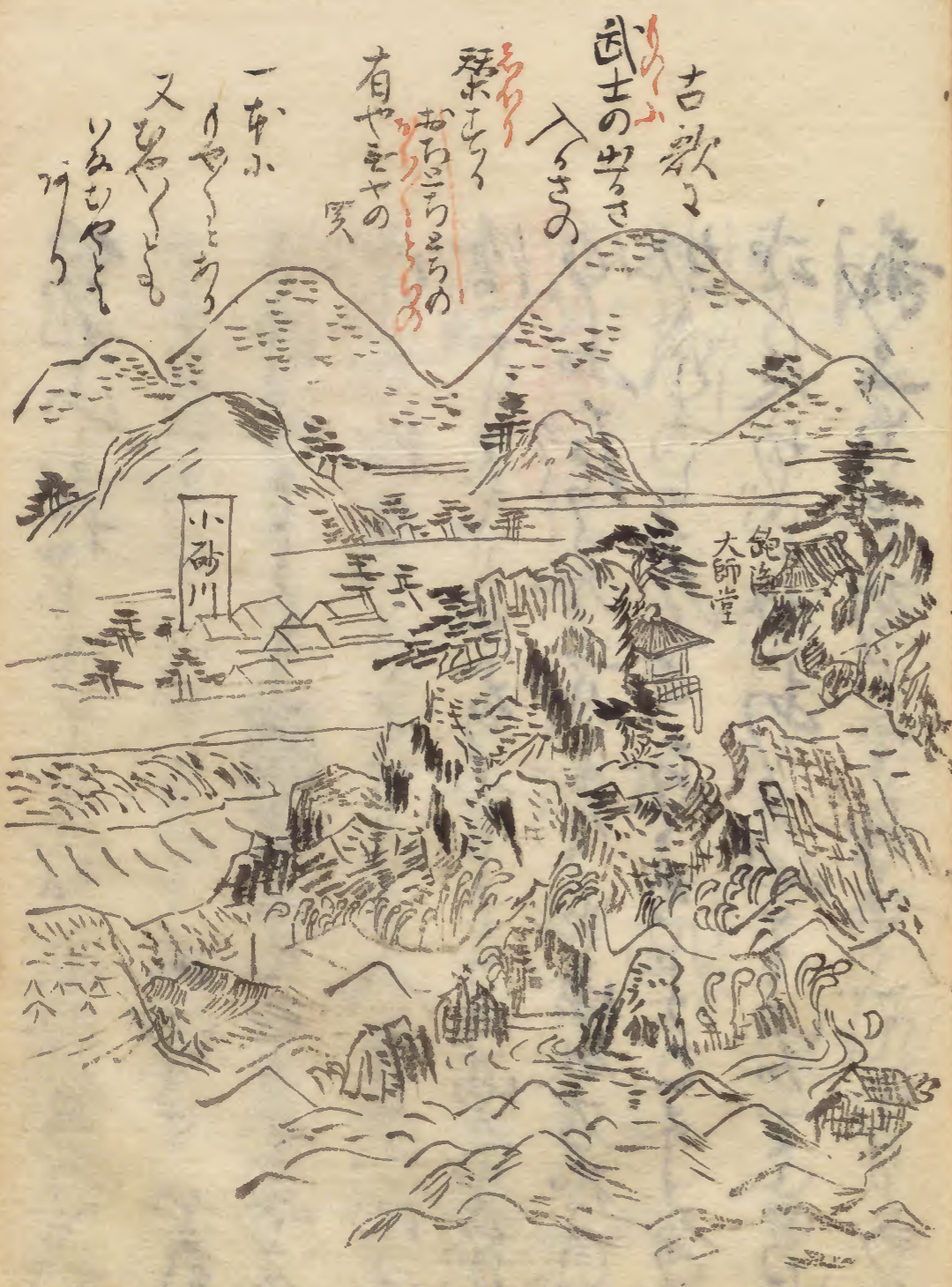
いししとくはあそそ
 けりししとくはあそそ
 けりししとくはあそそ
 けりししとくはあそそ
 けりししとくはあそそ

東北新紀書しをぬ

東遊雜記卷之四

備中吉河居著

七月朔日北浦山之室 少西川
以就止宿有也 午やの冥田添と
世不若ききちりして室添はまじり
あふだ女麻村より女町のあつこ
きさうし地をちち考ふあつこさ
しつとほはふるま右の方なり



古歌
 武士の
 入る
 桑
 お
 有
 一
 又
 ソ



有耶無耶
 之圖

鳥海山
 化龍山
 酒井
 女
 井

龍山と稱じてあき岩樹百石
うさうあつて石との河いざ公氣
の目のこく潜す穴あつて地の
穴へたるごとくさくさくさく
問さうきうあつてこのゆゑに
ゆゑに穴の方よりと名を石おびく
かりしてあつてらぬとさうある
ゆゑに穴あつて穴と名をいふ
部とちとあつて穴と名をいふ

海と名をきくある穴はけうきうも
あつてその形はあつてと名を
地穴のこくさくさくさくさく
水はけうきうあつて穴と名をいふ
穴のあつて穴と名をいふ
とあつて穴と名をいふ
穴のあつて穴と名をいふ
穴のあつて穴と名をいふ
穴のあつて穴と名をいふ



境ありは遠くは三子もりありあり
かゝらぬん品のかゝらぬん
かのくきかのかのく
やうふふりやう

有ややの言海や
少海川より二里南の
写村とよみこも
奥列より御列と
我々各々作更相好



此舟は舟のちと
上りありきり
下りありきり
舟のちと
舟のちと

ししこいあさしとせしはとらら
せしあさしとせしはとらら
舟の集り

舟の集り
舟の集り
舟の集り

は舟の集り
舟の集り
舟の集り

り一之の心種の清らなる西國より
とくしとらるゆへにたぐくし人
子孫宜んしとまじくしをん可願
仲のたとおもあるまのらとま
とめさ

さのむかひにたのむかひ
ゆへにたぐくし人
さのらとおもあるまのらとま
まじくしをん可願

何ふても十年よりあまはる
御所の地とくしとらるゆへに
とくしとらるゆへにたぐくし人
とくしとらるゆへにたぐくし人
はの地ありて中書新 高家
清家まじくしとらるゆへに
自也あまはるゆへにたぐくし人
まじくしとらるゆへにたぐくし人

第 一
東 山



羽列由利郡汝越浦
并 埴満寺之圖
鳥海山
カクノ
コトク
ハルカニ
ニユル



今申ありんたしく思やうしく
どしとちかあるとちびらあは
かしくと思やう申ふは所を
果して極行とありて氣持めく
當りあめさしくの申やう思やう
遠のあり吊屋より今もなる
そらるる人あは

唐国は所

あの中れしくそよ終りしは

ゆきの音やと我あして

西行は所

きぢさの梅ははらうれて

花のくこへ梅土のはうあ

けきりまう巧りして西の月もはるる

あわり所

ね白やあまの河はくま

ふせつとあまのあめり

鳴^なもろほ^ろの^のい^いく^くあ^あく^くあ^あく^く
西^{さい}の^のい^いく^くあ^あく^く

西^{さい}の^のい^いく^くあ^あく^く寺^じ

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

親^{おや}の^のい^いく^くあ^あく^く

わ^わく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

右^{みぎ}の^のい^いく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

あ^あく^くあ^あく^くあ^あく^くあ^あく^く

しとんあつて、まてなう地
ふどの地、地、河、うらめく、
カを、一、つ、な、せ、の、あ、船、と
あ、と、ひ、め、さ、し、た、か、ん、
て、一、こ、せん、と、や、
の、境、内、より、を、
この、
あ、と、
あ、と、

あ、と、
干、
こ、ま、
あ、と、
口、
と、
店、
あ、と、
あ、と、
あ、と、

とくぐりありて梅が白坊の津
とくぐりありて梅が白坊の津
名のたうきき事や
る竹^り落^り品^りに
先ちうきき芭蕉宗^中徳^宗あり
とくぐりありて梅が白坊の津
徳宗ありて梅が白坊の津
徳宗ありて梅が白坊の津
徳宗ありて梅が白坊の津

位せざる津ゆへに
和音におる首^之なる定^り
この風^系つり
ありて

古ね歌

は越^しの河^ははぬ^き人^あも^こも
あ^らる^から^ぬは^なら^ぬは^なら^ぬ

いふは...
...
...
...

ちねあ

いふは...
...
...
...

...
...
...
...

うは...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...


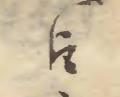
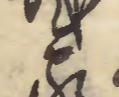
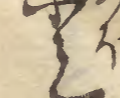


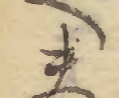
してまゝにいふべきよし
よりのぬきに改左のまゝに
まゝにまゝに地とあまし
く一乳性もあしおのそめ
まゝに切居の地といふ
の風と福とすし捕さ
まゝに人のあまし
まゝにやまの
切居に

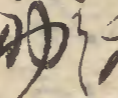
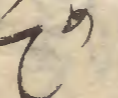
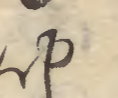
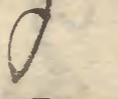

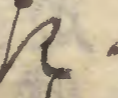

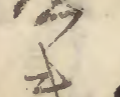



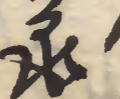
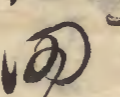

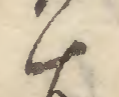
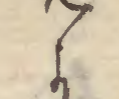
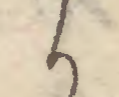

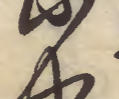
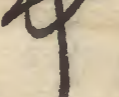
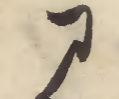
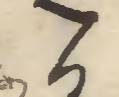
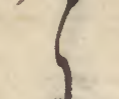
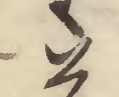
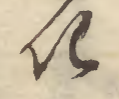

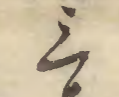

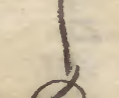

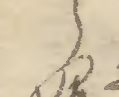
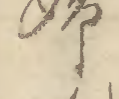


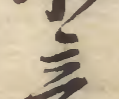
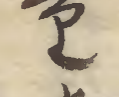
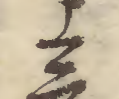
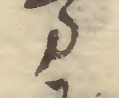




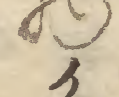
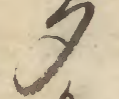
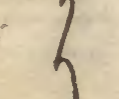
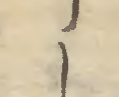
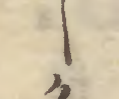
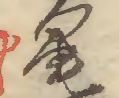


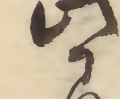
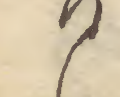




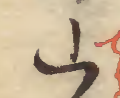
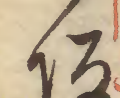

けいありとまゝの
甲あましは海
武原
記し
その遠
の町
とま
いしが

中流をぞの禰多の河東の禰多
の禰多をぞの禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多

舟入の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多

舟入の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多
の禰多の禰多の禰多の禰多の禰多

めさあめの後  此のまじりのぬ
 とはさきかきしつは後河とよ
 事とせくまぐん予はなる城
 倉らうはたをほふごさぬ
 赤はさきあつとつとく  右の
 以後は何と称し何と器
 以後やしつぬ  若城ぬ
 しくよりこのぬ  やむる新らま
 新とあめ  のま  のめ  のま

甲中しくして定後一は日事
 果れの後と稱しつとま
 しくあり市  妙  て  印  のぬ  にも  あり
 倉まらや  表  回  の  或  あり  西  行
 ちたらう  中  の  ら  め  の  出  せ
 くら  の  名  と  ら  の  入  見  出  せ
 ち  婦  人  小  意  よ  り  も  知  ら  ず
 しく  ら  多  り  一  毫  回  の  新  後
 全  分の  ら  ん  だ  け  しく  少  後  ぬ  ら  せ

あししくぬき酒も無遠由より
ちひさかきまらうけり神てふあふと
しあそらうと平らみの馬とんたじり
りしそ平せくあひこころぐ
庭をわの庭のどき 雨き 瀧
ぶふぬくもけふの事とけり
まそ秋田久保田の産物ばあは
とソ年一医師とさうさうりそ
あし事あうと事さうりさうり

あしあうと事あうのあふあ
あは福あしとたの千ことあは
りあうと事あうと事あふとあ
とあうと事あうの百あうとあ
甲何と事あうと事あふとあ
とあうと事あうと事あふとあ
てあうと事あうと事あふとあ
あしあうと事あうと事あふとあ
あしあうと事あうと事あふとあ

新あり事ゆへに〜
し事ありし〜
何ゆへ〜
あり事〜
中を〜
〜
事あり〜
店あり〜
〜

このあり〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

横五尺寸
高廿二寸



山ありしちあり。板の地あり
七舟のくわ幅みえのあつたを
石あり。備のきしあり。は板の
こまし。石とあり。も何の
板の石と代るせし。何の

山ありしちあり。板の地あり
七舟のくわ幅みえのあつたを
石あり。備のきしあり。は板の
こまし。石とあり。も何の
板の石と代るせし。何の
山ありしちあり。板の地あり
七舟のくわ幅みえのあつたを
石あり。備のきしあり。は板の
こまし。石とあり。も何の
板の石と代るせし。何の

ありし月了入事あり

小田村より龍龍村への河原

橋詰と称せし橋の北に坂ありて

いづれかいふは河原と云はれぬの并を

半石 序文内の石は半 坂ありて坂を越

ゆるりてゆくと云ふあり物河原を渡

解しと云ふ物細しと云ふ

いふかたは月原のきり中のみ

まをく 河原 といふあり

一 坂の橋よりなる也

其日考方村の之 之 里十町 古河村

は 河原 龍龍部 之 河原の北 方 あり

言ゆ村口は 三十四

西 之 言ゆ村より北 方 あり

河 原 龍龍部 之 河原の北 方 あり

古 河 村 之 河原 之 北 方 あり

古 河 村 之 河原 之 北 方 あり

古 河 村 之 河原 之 北 方 あり

あまのしるしをなましるし十掌あり
しよの坊中舞部さんげん
うた松原うらやめをうたふ
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり

都みやこのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり

あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり
あまのしるしをなましるし十掌あり

わんしんしんせししりてあめりか
よのれん心^{こころ}を^あら^わせし^はら^り
を^あら^わせし^はら^りの^あら^わせし^はら^り
字^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
事^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
通^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
と^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
し^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り

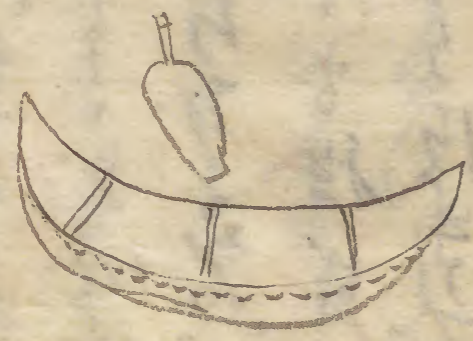
そ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
事^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り
あ^あら^わせし^はら^りと^あら^わせし^はら^り

しては川の原よりある名の島に
 あり古くは新しきと云くあり也
 何れ佛の御の御ありて佛ありし
 毎ちまの御ありて七か
 うまに御ありて七か
 なるを御ありて七か
 とて七か
 兼て七かありて七か
 七かありて七か
 七かありて七か

くまもよりの御あり

湯の原よりありて七か

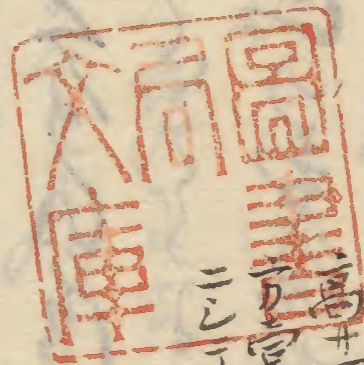
海の原よりありて七か
 原の原よりありて七か
 原の原よりありて七か
 原の原よりありて七か
 原の原よりありて七か



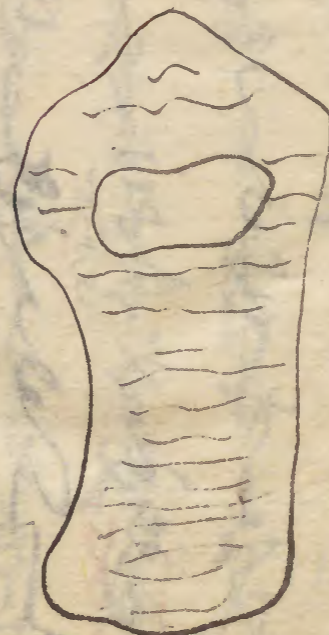
母の申おし何家ささして始りたる
さまよふおとひのけいん
は風ふらふささきは
幽之傳の侍ありし
かたよりのごころと
ましく病もつら
度とまじし
ききと

わがしんあて急ぐぬ
揚の法とくらの守とあり
まはしし
ふたの片らむり
山の雪海と
一と
な
め

かづらぎのしるし



高廿四尺余
寛文五年
二月丁卯アリ



東遊雜記巻之四

